

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1 部 2 年	子ども家庭支援の心理学	緒方 玲子	
サブタイトル	子どもの発達と子育て家庭の支援	単 位 数	2
授業形態	講義		
開講時期	後期	出席要件	4 / 5 以上
到 達 目 標			
本科目の目的は保育者として子どもとその家庭理解の基本となる子どもの発達と子ども家庭の支援方法を心理学の立場から学ぶことである。 1. 生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し、初期経験の重要性と発達課題について理解する。 2. 家族・家庭の意義と機能について理解をするとともに、親子（家族）関係を発達の視点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
本科目は、特に「②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」ことを目指す科目である。カリキュラムマップにおいて「子ども理解」に位置づけられており、15 回の授業により、子どもと子育て家庭について発達の観点から理解し、保育、教育現場における実習、保育関連科目を学ぶための基礎を身に付けることが求められている。			
授 業 の 方 法			
・講義においては聴講・ノートテキングを通して授業内容を把握する。 ・アクティブラーニング（グループ・ディスカッション、ロールプレイなど）を通して、理解を深める。 ・確認問題、レポートにより、授業内容を振り返り、確認する。 ・視聴覚教材を通して多面的に内容を理解する。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：原信夫、井上美鈴編著「子ども家庭支援の心理学」北樹出版 2019 年 その他 資料は当日プリントで配布する。 参考図書：「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針」チャイルド本社 「幼稚園教育要領解説」（政府刊行物） 「幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領解説」（政府刊行物） 「保育所保育指針解説」（政府刊行物）			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
定期試験、確認問題、レポート、授業態度、グループ・ディスカッション、発表、および小テストや振り返りの内容を総合的に評価する。		定期試験	70%
		確認問題・レポート	20%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
・コクヨノート(コクヨ、キャンパスノート B5 プリントが切らずに貼れるサイズ)を使用する。 ・欠席者への配布物は、速やかに確認し、課題は提出する。 ・公認心理師、臨床心理士としての実務経験を活かし、子どもの発達と子育て家庭の支援について、わかりやすく解説します。			

科 目 名 子ども家庭支援の心理学

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1 回	子ども家庭支援の心理学 ガイダンス 子どもの発達と子ども家庭支援の目的と意義について学ぶ	ライフサイクル・子ども家庭支援の目的と意義理解
2 回	乳児期の子どもと子ども家庭 アタッチメントと基本的信頼感の発達について	乳児期のアタッチメント・基本的信頼感の理解
3 回	幼児期の子どもと子ども家庭 基本的生活習慣と遊びについて	幼児期の子ども家庭・基本的生活習慣の理解
4 回	学童期の子どもと子ども家庭 家庭・学校・発達障害の理解	学童期の子ども理解・発達障害の理解
5 回	青年期の子どもと子ども家庭 思春期の仲間関係と家族関係について	思春期の子ども家庭・仲間関係・家族関係の理解
6 回	成人期・中年期・老年期 家庭生活と職業生活・高齢期の問題について	成人～老年期の家庭生活と職業生活・問題の理解
7 回	家族・家庭の意義と機能 家族・家庭の意義と機能とは何か	家族・家庭の意義理解
8 回	家族関係の発達 家族関係の発達について理解する	家族関係の発達の理解
9 回	子育ての経験と親としての育ち 子育て経験と親としての育ちについて理解する	親としての育ち理解
10 回	子育てを取り巻く社会的状況 現代の子育てを取り巻く環境について理解する	子育てを取り巻く社会的状況の理解
11 回	ライフコースと仕事・子育て・ワークライフバランス ライフコースと仕事・子育て・ワークバランスを理解する	ライフコースと仕事・子育ての理解
12 回	多様な家庭とその理解 現代の多様な家庭について理解する	多様な家庭への理解
13 回	特別な配慮を要する家庭への支援と理解 特別な配慮を要する家庭への支援について理解する	特別な配慮を要する家庭への支援・理解
14 回	子ども家庭支援の心理学 まとめ・発表	子ども家庭支援の心理学 まとめ
試験	定期試験	